

## 平成30年度第1回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会会議録要旨

<日 時> 平成30年10月12日（金）午後1時30分～3時00分

<開催場所> 市役所1階 全員協議会室

<出欠状況>

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 山本 | 堀川 | 児玉 | 寺島 | 戸塚 | 原田 | 山川 |
| 欠席 | ○  | ○  | 欠席 | ○  | ○  | 欠席 |
| 山中 | 今泉 | 佐藤 | 大原 | 小川 | 新山 | 大森 |
| ○  | ○  | ○  | ○  | 欠席 | ○  | ○  |
| 北田 |    |    |    |    |    |    |
| 欠席 |    |    |    |    |    |    |

<事務局>

子育て支援課長 学校教育課長 子育て支援課副課長  
子育て支援課主事

<傍聴人> 0名

<次第>

- 1 開 会 子育て支援課長
- 2 会長挨拶
- 3 講演  
「市内のいじめの状況と対応について」  
講師：齊藤 一美 氏 （スクールソーシャルワーカー）  
富士見市教育相談室
- 4 意見交換
- 5 閉会

<講演>

### （1）講演内容

- ・教育相談室の職員構成や適応指導教室「あすなろ」の説明
- ・いじめの実例紹介
- ・富士見市のいじめ防止の取組紹介
- ・いじめに遭遇した際の対応方法

※資料は非公表

### （2）質疑応答

【委 員】いじめの現状の事例のところですが、「次のターゲットは君だよ」という消しゴムが机の上に置かれるというものがありました。消しゴムが置かれた後はどのようなことが行われたのでしょうか。

【講 師】仲間はずれにするとか口を利かないということがあったようです。残念なのは、学校がそこに気づかなかったことで、誰かがそこに気づいたり、子どもたちが、担任の先生に話をしたりしていれば、もっと早く解決

できたと思います。

【委員】親や学校に言えば告げ口したということで、新たないじめにつながるという報道もありましたがその点はどうか。

【講師】そういうことがあるのでなかなか言えないのです。言ったら自分の子がいじめられてしまうのではないかという保護者心理もわかるのですが、伝えないと始まりません。言った子がいじめに遭わないようにするのが、大人の役目です。まず声に上げるというのが大事だと思います。

【委員】あすなろ教室に関して、通って来ているお子さん以外に、不登校で家にいる子もいると思いますが、どれぐらいの割合の子があすなろに通えているのですか。それと、あすなろ教室から自分の学校に復帰していくケースなどの状況を知りたいです。

【講師】不登校の児童生徒が何人いて、その中の何パーセントがあすなろに来ているというのは、今日データを持ってきておらず、お話しできないので、あすなろに来ている生徒の現状をお伝えします。あすなろは通常、9時に来て2時30分になったら帰ります。子どもによっては、10時に来る子もいますし、午前中あすなろに来て、午後は学校に登校している子もいます。朝電話をかけてきて、今日は学校行くのであすなろ行きませんという子もいます。私たちからすると、家にずっといて、例えばゲームとかで昼夜逆転している子たちもいる中で、あすなろに来られるだけでも、頑張っているなというふうに解釈しています。校長先生と協力して、子どもによって、あすなろを紹介する活動もしています。ただ、その子があすなろに行ってみようという雰囲気にならないと、強制的に連れてくる訳にはいけないので、そこが難しいところです。今年、中3の子たちもいまして、進路という問題も出てきていますが、中には、進路の方向性も見えてきましたという子もいます。また、あすなろに来ている時は、子どもたち非常に明るい顔をしています。だから、本当はもっと来てもらえるといいなと思います。あすなろにはスクールソーシャルワーカーが、私ともう1名いますが、あすなろに通えない、家の中にこもっている子についてどうしたらいいのかなというのを常に考えています。簡単にこうしたらいいというのは言えないのですが、各学校では本当に頑張ってくれて、私たちもお手伝いをちょっとでもできればなと思っています。

【委員】スクールカウンセラーは、あくまで対象は子どもだけであって、あすなろにも来られないご家庭の親御さんに、お話をしたりということはなさらないのですか。

【講師】そのような事例もございます。小学校の時に定期的に月に1回程度お母さんがスクールカウンセラーと面談受けていた事もありました。

【委員】あすなろでは、2時30分に下校ということですが、2時30分に全員帰すのですか。延長はないのですか。

【講師】2時30分に、学校と同じようにホームルームをやります。それが終わったら、子どもたちは学校の下校時間よりも前に帰るということにしています。

【委員】なぜこのような質問をしたかというのと、共働きの家庭が非常に増え

てきている中で、仕事を終えて親が帰ってくる時間まで利用できるように、今後検討していただくと有難いと思ってお聞きしました。

【委員】いじめが解決されていった過程など特徴的なものがあったら教えてください。

【講師】私は元教員ですので、当時の自分の学校での話をしますと、特徴というよりも、どこの小中学校でもやっていると思うのですが、いじめの実態を早期に把握する意味で、アンケートがあります。アンケート内容によっては、生徒と先生が面談をしたり、保護者にその子の状況を聞いたりし、いじめを早期に発見するようにしています。その後、担任だけで、学年だけで、解決していくのではなく、すこやか支援員や養護教諭たちの力を借りながら、皆で一つ一つ解決していきます。

#### <意見交換>

【会長】今後の皆様の活動に生かしていけそうなことがございましたら、ご意見等お願いいたします。小学校、中学校で、学校の先生方の取組が大きいと思うのですが、もし差支えなければ、学校での具体的な事例を伺えればと思います。

【委員】SNS等の指導について、本校は小学校の割には所持率が非常に高く、6年生で90%を超えています。そこで、やってはいけない、使っちゃいけないという指導はしていません。正しくきちっと使う指導、これを徹底的にしています。NTTの方やゲーム会社の方に来ていただいて、積極的な対応をするように指導しています。それが波及して人間関係においても、これは禁止だという指導ではなくて、もっと有効に生かしていくためにはどういう指導をしていこうかと考えています。いじめに関しても人間関係に関しても、いわゆる積極的な指導を進めていっているところです。

【委員】先ほど齊藤先生からも、SNSの中のいじめは、学校の現場や地域の大人からはわからない、親がしっかり見てほしいという話があって、非常にドキッとしたのですが、実際は親でも、その中をのぞくことはできないのが実態だと思います。色々な親御さんと関わっていると思いますので、うちはこのような取決めなどをして、自分の子どものSNS対策をしているというような良い事例はないか教えてください。

【委員】発達の段階で違うとは思いますが、本校の場合は、小学校で民間の方や警察の方に話をしてもらうと、子どもたちもわかってくれますし、共通理解を図りながら話すことによって、各家庭で守ってくれているようです。あとは、保護者の方々向けにフィルターのかけ方などを教えていただいております。ただ、それが中学校になりますと、子どもたちもそれに対処します。よって、最近の取組だと子どもたち同士で規約を決めたり、生徒会の中で、自分たちの学校はこういう使い方をしようと決めたり、ルールづくりをするというのが流行ってきています。

【委員】今まで中学校のいじめの発端の一つがSNSで、誹謗中傷であった

り、既読なのに返信が来ないであったり、そのラインからはぶかれるであったり、たぶん外からはわからないと思います。見ることもできないです。でも、私たちは想像することはできると思います。子どもの様子がおかしいとか、いつもスマホを離さないとか、夜遅くて朝起きてこないとか、何かしらの子どもの変化があると思います。それを敏感に感じられるのは保護者の方しかいないと思いますので、アンテナを高くして子どもの様子を見てもらい、うちの子最近おかしいですということを学校に知らせてもらえれば、手だてはいくらでもできますので、それこそ連携かなと思っています。今まで小学校、中学校、それぞれ独自でSNSの使い方の啓発など取り組んできて、ここでちょっと限界かなと正直思ってきています。どういう意味で限界かと言うと、小学校だから中学校だからと考えることが限界かと思っています。これこそ小学校、中学校一貫で、少なくとも義務教育の間どうしようか、もちろん禁止ではなくて、上手に使うということを前提としてです。今後考えていることなのですが、生徒会と児童会の子どもたちを呼んで、生徒会と児童会で話し合いをして、この学校区に生活する皆はこういうふうにしたらいいと思うというのを、子どもたち自身に決めさせて、その話し合いをPTA役員さんに見てもらって、子どもたちで決めたよ、だから守ろうよというかたちで呼びかけをしてもらう。あれだめこれだめ、というのは絶対だめですから、そんなようなかたちで少しずつやってこうかなと考えています。

**【会 長】** ありがとうございます。保護司の立場から、今回の講座の感想などありましたらお願いしたいと思います。

**【委 員】** 毎年恒例で市内の中学校を対象に、2校ずつ、非行防止教室ということで講演会を開いています。今年は水谷中学校と勝瀬中学校で行いまして、水谷中学校では以前保護司をやっていた方のお話を全校生徒に聞いていただき、勝瀬中学校ではインターネットやスマホの取扱いの説明を先生からしていただきました。スマホについてトラブルが多くなっているようで、最近各中学校においても、スマホについての議題が多く取り上げられているようです。いじめに関係することが結構あるようなので、先生から色々注意をされました。毎年恒例で行っており、次年度も2校行いたいと思います。

**【会 長】** ありがとうございます。他にご意見等ございますか。

**【委 員】** 先ほど齊藤先生のお話の中に、中学生、小学生の代表者が、いじめ問題について話し合いを年に1回しているとありましたが、私も1度参加したことがあります。集まった子たちはやっぱり選ばれている子たちですから、非常に前向きなお子さんが集まっていて、とっても素晴らしい意見が出ていました。うちの学校ではこういうことをしていますということ、感じ取りながらやっていたのを見ていて、ああ、本当に子どもって、一生懸命考えればこんなことができるのだなと思いました。どうぞ、年に

1回とか各学校でやっていらっしやると思いますが、学期に1回ぐらい、子ども同士の他の学校との交流など、こういう問題があるのだけどうしているみたいなことができるといいなと思っております。

**【講師】**今やっていることとして、各中学校区で小学校6年生が中学に上がる時に中学校の先生方と小学校の先生方で情報交換会というのを行っています。例えば、小学校6年生の先生がこういう課題の子がいるよとか、ちょっとこの子はこういうことでいじめを受けたことがあるとか色々な情報を中学校に送ります。中学校の先生方はそれを基に、最初からその子へのケアをしてくれていますので、そういうのもすごく大事なかなと思います。さっきの子ども会議については、かつて自分がいた学校ですと毎年ありまして、今年はいじめ撲滅についてどんな取組をしようかと最初に話し合い、1年間のスパンでやっていきます。その成果や実施している途中結果を、子ども会議を通じて発表させていました。学校に話し合いの成果を持ち帰って、全生徒に報告するので、子ども会議での話し合いも大事ですが、それを学校に、どう広げるかというのが大事だと思います。

**【事務局】**子ども会議は平成24年の大津の事件、いじめ防止対策推進法の施行にあたりまして、本市としてもいじめに関してアンテナを高くし、子どもたち自らがいじめに対して、自分たちで解決する力を身につけていこうというのが、もともとの出発点で始まったものでございます。本市の場合は小、中それぞれの学校の代表者が集まって、それぞれの学校の特色ある取組を各学校に発信するとともに、各学校での取組のなかで自校に生かせるものがあれば生かしていこうということで、各学校の児童生徒の代表が、キャッチした情報を自校に持ち帰っていただいて、それを児童生徒等に発信し、独自の各学校の特色ある活動を進めていくため、今まで継続的に取組んでいます。毎年毎年、本来は回数多くやりたいのは正直なところですが、何せ全員を集めるということがなかなか難しいという現実的な問題もあり、本市は校長会、教頭会、生徒指導主任等、あるいは部活主任等、あらゆる研修の場をとおして、各学校に取り組んでいただきたいと、お話をこちらからはさせていただいています。今、学校はチームという言葉があります。つまり、各学校にいる児童生徒はもちろん、教職員、保護者、地域、町内会さん、あとはこの場の皆さんのお力をお借りして、学校全体、地域で子どもたちを見守ってくださいという情報発信をしています。よって、地域の目の数が多ければ多いほど、学校としてもより安心感がありますし、また、学校内ではどちらかというところは見つけられない、見落としやすい部分も、地域の方のお力を借りて、何かあったら遠慮なく学校に情報をいただき、連携がそこで密になっていくと思います。小中連携という意味では各中学校区を中心に、それぞれ先生方が集まって合同に研修をしたり、子ども同士の交流等も結構盛んに取り組んでいただいております。学校全体を皆で色々なかたちで支えていただき、またご支援をいただければ

これほどありがたいことはないかなというふうに思っています。本市の教育委員会、学校教育課としても、そんなかたちで皆さんにご協力、ご支援いただけるようにと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【会 長】他にご意見等ございますか。

【委 員】子ども未来部が所管しておりますいじめ防止サポーターですが、今年度7件増えました。今まで毎年1件、2件程増えていきましたが、中心となっているのが個人の方や商店の方が多いので、廃業があり、辞めてしまうことがありまして、なかなか数が増えませんでした。今年度7件ほど増えまして、合計で201の団体の方に登録していただいております。増えた7件ですがセブンイレブンさんです。担当の方で市内のコンビニ事業者様にお声掛けさせていただき、オーナーさんの判断になりますが、セブンイレブンさんのオーナーさんにご賛同いただいで登録いただきました。やっと200を超えたという状況です。それともう一点、皆さんご承知のように昨年の10月に子ども未来応援センターがオープンしまして、いじめの問題だけではなく、子どもの何でも相談窓口として開所させていただきましたが、昨年10月からの年度で半年、今年度で半年たちました。昨年度の半年間で111件の相談があり、今年度がこれまでに119件の相談がありました。だいたい年間230～240の相談件数になりますが、その中でいじめに関する相談件数は0件でした。あっても不思議ではございませんが、基本的にいじめの対策は、小中学校の現場で様々な取り組みがありますので、子ども未来応援センターでの相談はなかったのではないかと思います。

閉 会 副会長